令和２年度
持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析
調査報告書
【概要版】(報告書抜粋)

文部科学省 科学技術・学術政策局
産業連携・地域支援課
（調査委託先：有限責任監査法人トーマツ）

文部科学省

【はじめに】
本事業の概要・実施方法

本調査の背景・目的・内容

✓ 今後のアントレプレナーシップ教育の推進にあたり基礎的整理を行う

背景

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大等、社会環境の変化の中で、アントレプレナーシップを我が国全体で醸成していくことが重要であり、人材の育成及びその環境整備が必要である
- 文部科学省で実施しているEDGE-NEXTに対して行政事業レビュー「公開プロセス」において、大学間連携によるネットワークづくり等に焦点を当てて、一部業務の改善に向けた取組を強化すべきではないかとの意見。
- 統合イノベーション戦略2019を元にグローバル拠点都市及び推進拠点都市が選定

文部科学省における検討状況

- アントレプレナーシップ醸成に資する基盤的教育プログラムと、実施機関及び大学等の参加機関間のネットワーク機能等を備えたプラットフォーム形成の検討を進める
- 当該分野の経験や知見がない大学等に対しての情報発信や、教育を担う教職員の研修・育成の機会、基盤的教育プログラムの提供及び学生の他大学への派遣等の機能を検討
- 教育プログラムの検討にあたっては、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、オンラインコンテンツに関するプラットフォームの検討等を進めることによりアントレプレナーシップ教育を受講できる機会を今後我が国全体に拡充する

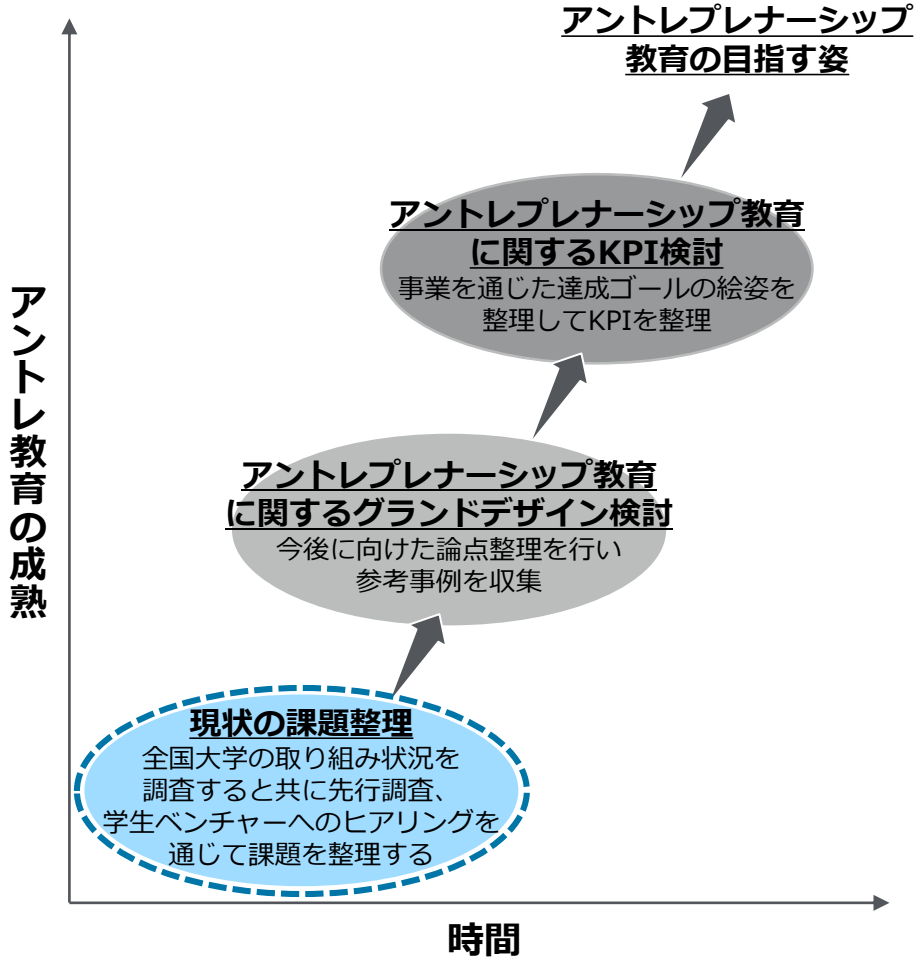
調査内容

- 各大学におけるアントレプレナーシップ教育の現状について調査・分析
- 教育プログラムの普及・展開の方向性を検討
- 今後のアントレプレナーシップ教育全体の目指すべき方向性（グランドデザイン）について検討し、その実現のための方策として、プラットフォームの在り方や機能等について検討・分析・考察を行う
- オンラインコンテンツの効果的な発信方法の検討、新規オンラインコンテンツの検討・開発、開発したコンテンツがあればその試行的な共有・展開等を行い、我が国における持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等の検討・整備を進める

本調査の検討論点

✓ 本調査ではアントレプレナーシップ教育の目指す姿と現状を整理し、今後の施策の方向性を検討することを目標とする

本調査における検討論点の整理



検討項目の調査アプローチ

検討論点	プロジェクトアプローチ
あるべき絵姿設計と目標設定	• アントレ教育の目指すべき方向性を整理
取り組むべき施策の論点整理	• アントレ教育の目指すべき方向性と現在の課題とのギャップを埋めるための施策の各論を整理する
現状の課題整理	• 大学や関連ステークホルダーの現状の取り組みと課題を整理する

本調査報告書の構成

✓ 本調査報告書の全体構成は以下の通りである。

【第1章】大学におけるアントレプレナーシップ教育の目指す姿と取り組むべき課題	• 第１章では、本調査で実施した**大学へのアンケート調査結果の概要**を示すとともに、そこから見えて来た課題を整理した上で、**今後の方向性についての当社の提案の概要**を示した。
【第2章】大学におけるアントレプレナーシップ教育の現状	• 第２章では、全国1007の大学・短期大学に対して実施したアントレプレナーシップ教育の実施状況に関する**アンケート調査（回答数598校）の結果**を示すとともに、そこから**見えて来た課題を整理**した上で、**今後の方向性についての当社の提案**を示した。
【第3章】アントレプレナーシップ教育の事例調査	• 第３章では、特徴的なアントレプレナーシップ教育を実施する**国内大学、海外大学の取組事例**を課題となる項目ごとに整理して示した。また**地方自治体における取組事例**について調査した結果を示した。
【第4章】学生のアントレプレナーシップ教育の受講に関する調査	• 第４章では、受講者の裾野拡大のための方策を検討するため、EDGE-NEXT プログラムの約150名の受講学生を対象に**アントレ教育を受講した経緯等**をNPS（ネットプロモータースコア）を測定することにより調査した結果を示すとともに、得られた示唆についてまとめた。
【APPENDIX】	• APPENDIXでは本調査で実施した以下の５つの取組の内容をまとめた。

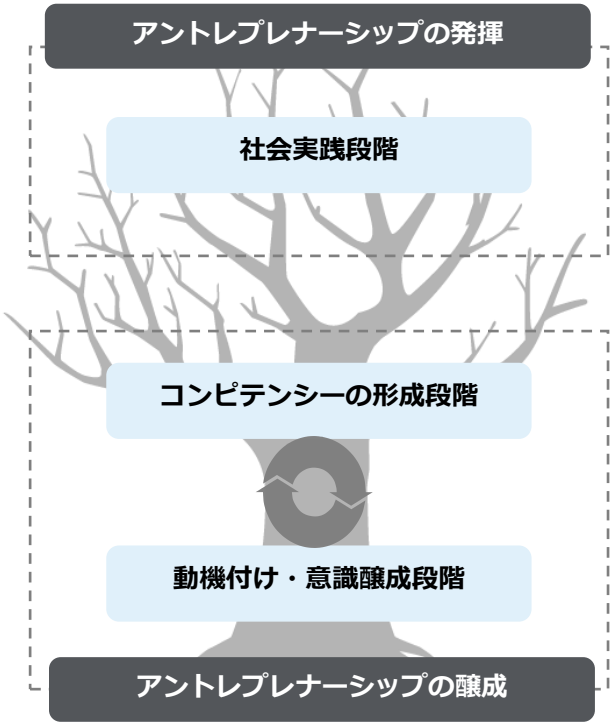
①	**有識者委員会における検討**	アントレ教育の全体像を整理（P10）し、課題や今後の方向性について検討した。
②	**教員育成派遣プログラム**	海外の先進大学が提供するアントレ指導者育成プログラムに教員を派遣し、そこで得られた知見を元に、日本におけるアントレ教育の指導者養成の方策や課題を検討した。
③	**学生派遣プログラム**	これまでアントレ教育の受講機会が無かった全国の学生を対象に、EDGE-NEXT実施大学が提供する教育プログラムへの参加機会を提供し、受講者の裾野の拡大のための方策や課題を検討した。
④	**大学発ベンチャーに対する調査**	大学発ベンチャーの創業者に対してアントレ教育の受講歴等についてアンケートを行い、利用者の視点から見た、必要な教育プログラムの内容等について調査した。
⑤	**オンラインプラットフォームに関する調査**	オンライン教育の必要性を踏まえ、国内外のオンライン配信プラットフォーム及び国内外の代表的なオンラインアントレ教育プログラムについて、デスクトップ調査を実施した結果を示した。

【第1章】
大学におけるアントレプレナーシップ教育の現状と課題（調査概要）

アントレプレナーシップ教育の現状把握の観点整理

✓ 有識者委員会を通じて、アントレ教育の目指す姿を整理するとともに、アントレ教育の実施・普及状況、アントレ教育の予算、アントレ教育の実施体制の実態を捉えることで、目指すべきアントレ教育に対する、現状のアントレ教育の実態を整理する

目指すべきアントレ教育の姿の検討



目指すべき姿に対する現状把握の主な観点

アントレ教育の実施・普及状況

■ 国内大学でアントレ教育を実施している大学や受講者の割合がどのようになっているか

アントレ教育を行うための教育予算

■ アントレ教育を実施するために必要な教育予算が確保されているのか

アントレ教育を行うための体制

■ アントレ教育を行うための体制（プログラム・インフラ）は整備されているのか

着眼点を踏まえた具体的な指標・項目

➢ **アントレ教育実施大学率**

➢ **アントレ教育受講率**

➢ **アントレ教育の年間予算**

➢ **プログラム※の整備状況**

※動機付け～社会実践までの段階におけるプログラム

➢ **民間や他大学等外部機関との連携**

大学単独だけ網羅的にインフラ整備することは困難の為、外部との連携を要する

アントレプレナーシップ教育の全体像

【未来社会像】
多様な価値を認めウェルビーイングを達成するためのよりよい社会
一つの固定されたものではなく、常に考え続けていかなければならないもの

【目指す人材】
急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神
（アントレプレナーシップ）を備えた人材の創出

※スモールビジネスにはNPOなども含む

アントレプレナーシップの発揮

研究成果の活用も含め、スタートアップやスモールビジネス、
地域特有課題の解決など、創造したい未来・解決したい課題に応じ、
実際に事業を進めていくにあたり必要な様々な専門知識や機会を提供

既存組織　スタートアップ　スモールビジネス※

社会実践段階

未来創造や課題解決のために必要な汎用知識やスキルを
提供すると共に、それらを活用し、
実現に向けた仮説検証ができる場や機会を提供

コンピテンシーの形成段階

社会に存在する課題を自分事として捉える
課題の発見力や共感力を育むことを入口に、
不確実性の高い環境下でも自身の持つ資源を超えて機会を追求し未来創造や
課題解決に向けた行動を起こしていくための精神と態度を学ぶ場や機会を提供

動機付け・意識醸成段階

アントレプレナーシップの醸成

■各専攻分野を通じて培う学士力
（中央教育審議会答申）
（1）知識・理解、（2）汎用的技能、（3）態度・志向性、
（4）統合的な学習経験と創造的思考力

■「生きる力、学びのその先へ」
（文科省　新学習指導要領）
・学んだことを人生や社会に生かそうとする（学びに向かう力など）
・実際の社会や生活で生きて働く（知識及び技能）
・未知の状況にも対応できる（思考力、判断力、表現力）

■Education2030
「変革を起こす力のあるコンピテンシー」（OECD）
・新たな価値を創造する力
・対立やジレンマを克服する力
・責任ある行動をとる力

アントレ教育に関わらず、
大学卒業までに
広く身に着けるべき能力

アントレプレナーシップ教育の現状

✓ 国内大学において、アントレ教育はまだ普及途上の段階であり、受講者の裾野拡大、学内リソース不足、教育の効果検証と成功事例の横展開が課題である

■ 実施期間：2021年1月から3月まで
■ 回答対象：日本国内の国公私立大学・短期大学 1,007校
■ 回答件数：598校（回収率59.4%）

現状のアントレ教育の主な取組状況※

アントレ教育実施大学率	**27%**	■ EDGE-NEXT大学を含めアントレ教育を実施しているのは回答のあった598校の内の27%である
アントレ教育受講率（国内大学生・大学院生）	**1%**	■ 1年間でアントレ教育を受講した大学生・大学院生は全国で約3万人（全国の大学生・大学院生はおよそ300万人）
ステージ毎のアントレ教育プログラムの整備状況	**全プログラムのうち実践編の割合 7%**	■ 一部の大学では実践的な内容があるものの多くの大学では実践的な内容が提供できていない ■ プログラムの改善・更新に向けたPDCAが回せていない
アントレ教育の年間予算	**予算なし 35%**	■ アントレ教育を実施している大学の35%は予算なし。約70%は年間予算100万円以下である
民間や他大学等外部機関との連携	**ほとんどの大学で不十分**	■ 何らかの連携は実施しているが、自大学で提供できないリソースに対応できるような大企業やVC・他大学等外部との連携は十分ではない状況

※記載内容は、今回の調査で実施を行ったアンケート結果を踏まえ作成。
アンケートに回答していない大学の取組は反映されていない

アントレ教育の現状を踏まえた課題の整理

✓ アントレ教育の推進にあたっては、受講者の裾野が広がらない・アントレ教育のリソースが不足している・アントレ教育後の成果を見据えたプログラムや仕組みが不足している・効果検証や聖子事例の横展開の機会が不足しているなどの課題がある

アントレ教育の現状を踏まえた課題

1

■ 受講者の裾野が広がらない

➢大学全体としての理解が不足し、一部の教職員による活動で裾野が広がらない

2

■ アントレ教育のリソース不足

➢学内：アントレ教育を指導する体制が構築されていない

➢学外：外部からの不足リソースの確保が出来ていない

3

■ 成果を生むための仕組みの未構築

➢アントレ教育とその後の起業に至るプロセスとが一貫したものになっておらず、アントレ教育後に成果を出すために必要な外部との連携が出来ていない

4

■ 効果検証・成功事例の横展開の不足

➢アントレ教育の効果検証や方法論が不足している。成功事例を知る機会不足している

アントレ教育の各課題の詳細

✓ 特に課題の種類が多いのは、「アントレプレナーシップの醸成」のうち「動機付け・意識醸成」の部分である

現状の課題			アントレ教育		アントレ教育後
			アントレプレナーシップの醸成	アントレプレナーシップの発揮	
			動機付け・意識醸成 / コンピテンシーの形成	社会実践	
1 受講者の裾野拡大	学生に対する普及啓発		✓ 講義以外の取組みや情報発信の不足 ✓ 学生コミュニティとの連携不足 ✓ 小中高との連携不足		
	大学内での理解の促進		✓ 大学全体としての理解・協力の不足（各学部や研究科での個別対応になっている） ✓ 単位化/必須科目化等、学び促進不足		
	社会全体における認知		✓ アントレ教育の重要性・必要性の理解不足 ✓ 保護者における、学生の受講に対する理解不足 ✓ 社会一般における理解不足 スタートアップだけではなく企業内でもイノベーションを創出する人材の必要性		
2 アントレ教育のリソース不足	学内リソース	ヒト	✓ アントレ教育を指導できる人材の育成不足・実務家の採用不足 ✓ キャリア開発等の教員の巻込不足 ✓ 大学内の教育の巻込の不足 ✓ 学術と実務双方を進める教員の育成不足		
		モノ	✓ コーディネート機能の未構築（動機付けから社会実践まで学べるプログラムの全体コーディネートが不足） ✓ 事務局機能の未構築（教員が指導に集中できる環境構築が不足） ✓ 教育プログラム及び共有の不足（成功事例の大学間の事例共有の場および動機付けから社会実践まで学べる場の整備が不足） ✓ アントレ研究に対する支援不足 ✓ 全大学共通プログラムの開発不足 ✓ 人事評価制度の未対応 ✓ 起業支援プログラムの不足		
		カネ	✓ アントレ教育のための予算獲得難		
	学外リソース		✓ 学内だけでは対応しきれないヒト・モノ・カネのリソースをカバーできるような外部（OBOG・他大学・大企業・VC・自治体・スタートアップ支援機関等）との連携不足 ✓ 各地に所在するエコシステムのコミュニティとの連携不足		
3 成果を生むための仕組の不足			✓ アントレ教育後のフェーズにおいての課題（右記記載）		3 成果を生むための仕組の不足 ✓ 仕組みの企画設計及び学内外を巻込み取組む人材不足 ✓ アントレ教育後の展開を見据えたプログラムの未整備や外部連携の未構築
4 効果検証と成功事例横展開			✓ 他大学の取り組みを知る機会の欠如 ✓ 教育効果の可視化不足（各大学の取組を横展開するための取組評価指標及び有識者による第三者評価を行う継続的機会の設置）		

アントレ教育推進に向けた提案

✓ アントレ教育の推進に向け、各課題に対応した提案をまとめた

課題テーマ	改善に向けた当社からの提案
❶ 受講者の裾野が広がらない	■ 大学内への働きかけと社会へのアントレ意識の浸透【提案①】
❷ アントレ教育のリソース不足	■ 学内指導体制の整備【提案②】 ■ アントレ教育エコシステムの形成に向けた地域連携の促進【提案③】
❸ 成果を生むための仕組みの未構築	■ 成果輩出を見据えて連携すべき外部先の検討とそれを踏まえたプログラムの拡充【提案④】
❹ 効果検証・成功事例の横展開の不足	■ プログラム・運営体制等のPDCAによる教育成果の最大化【提案⑤】

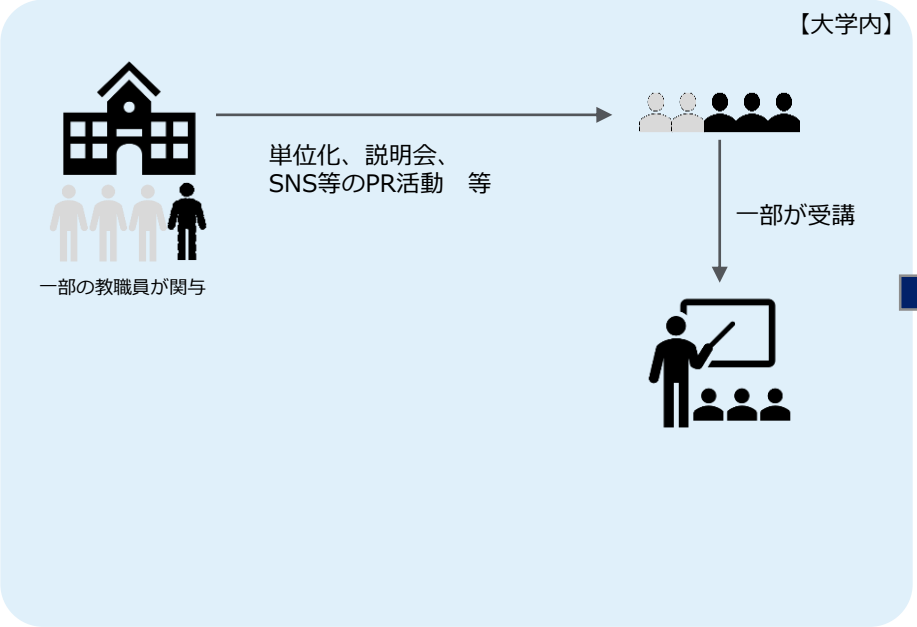
次頁より詳細

【提案①：大学内への働きかけと社会へのアントレ意識の浸透】現状と目指す姿

✓ 文部科学省において、小中高生や保護者にアントレ教育の重要性を認知させつつ、大学は学内全体の理解促進や制度面の整備による受講しやすい仕組みづくり、起業家との交流会を創造を通じて、裾野を広げる

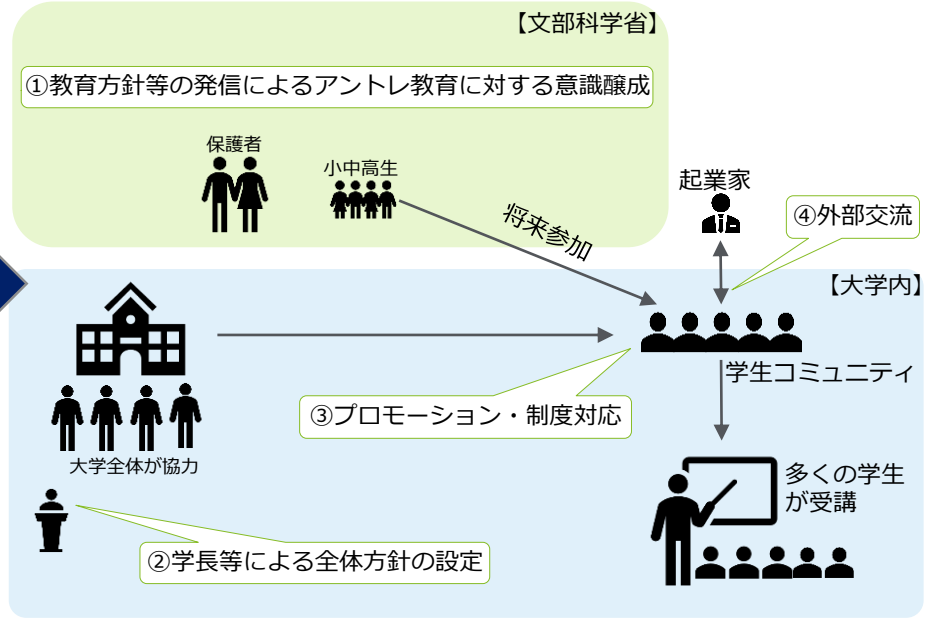
現状

大学全体としての理解が不足し、一部の教職員による活動で裾野が広がらない



目指す姿

大学内外におけるアントレ教育の機運の醸成と学生が受講しやすい環境整備を通じ裾野を拡大する



今後の方向性		
	各大学	② 学長等大学トップの方針として大学全体として取り組むべきこととして教職員の巻き込み ③ 単位化等の学内制度面の対応を進め、受講しやすい仕組みの構築や、イベントや情報発信等を通じたアントレ教育の認知向上 ④ 起業家（できれば著名人）との交流機会を設け、アントレを知り関心を持つ機会の創造
	大学への支援	① アントレ教育の重要性・必要性を発信（全ての学生が備えるべきマインドであり、スキルであることを教育方針やメディア等の通じ、広く社会に発信）し、小中高生、保護者の認知と理解の促進 ① アントレ教育の推進を大学全体として取り組む先への認証付与等による大学内での取組み活動の後押し

【提案②：学内指導体制の整備】現状と目指す姿

✓ 運営面において、全体設計や企画調整、事務局機能により全体をコーディネートし、現場において指導人材の巻込みや育成、大学間連携を通じたプログラム共有や指導教員の共有等を推進することで、学内の指導体制を確立する

現状

一部の教職員による取組体制であり、アントレ教育を提供する教職員の育成も途上段階で必要なプログラムが提供しきれていない

アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮
動機付け・意識醸成	コンピテンシーの形成	社会実践

【大学内】

大学の一部の教職員が関与

外部からの採用・協力で対応しつつある

一部の大学では取り組みつつあるものの
学内での教員育成は途上段階

目指す姿

指導体制の全体設計と企画調整・運営を行う事務局を設置し、指導人材の巻込みや、大学間連携を通じた人材育成やプログラム共有等で学内の指導体制を確立する

アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮
動機付け・意識醸成	コンピテンシーの形成	社会実践

【大学外】

①成功事例の調査・携候補先の開拓

【大学内】

運営

②全体設計・企画調整

事務局

③環境構築

現場

④アントレ教育の指導人材の巻込み・指導人材育成

外部採用・協力

⑥次頁の外部連携

⑤教育ノウハウ・プログラム・指導人材共有

他大学と連携

今後の方向性

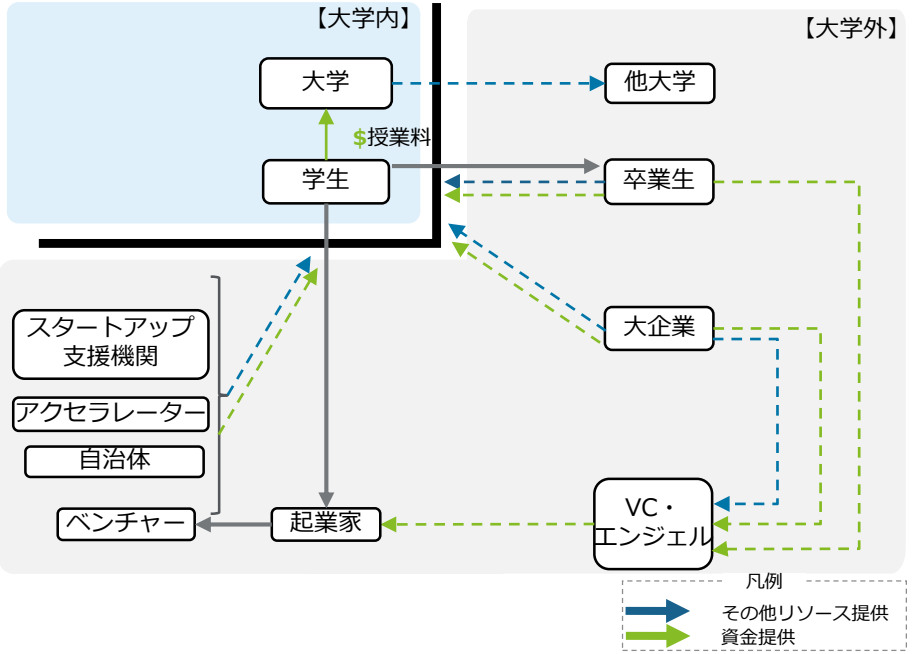
各大学	② プログラムの全体設計・企画調整が出来る人材の配置 ③ 教職員がアントレ教育指導に集中できる環境の構築 ④ 学長等大学トップの方針によりアントレ教育を行う学内教員の巻込みや指導人材の育成 ⑤ 教育ノウハウやプログラム、指導人材の共有 ⑥ 外部から実務家教員の採用
大学への支援	① 国内外の大学における成功事例の調査と、国内大学への情報共有及び、連携の候補先となる海外大学や外部機関の開拓と国内大学への紹介

【提案③：アントレ教育エコシステムの形成に向けた地域連携の促進】大都市における現状と目指す姿

✓ 学外の関係機関とのネットワークを持った人材を配置し、学内外を接続するとともに学内外の状況を俯瞰的にみた上で、アントレ教育の全体構想を企画・推進することで、アントレ教育エコシステムの形成に向けた不足リソースを外部と連携し調達する

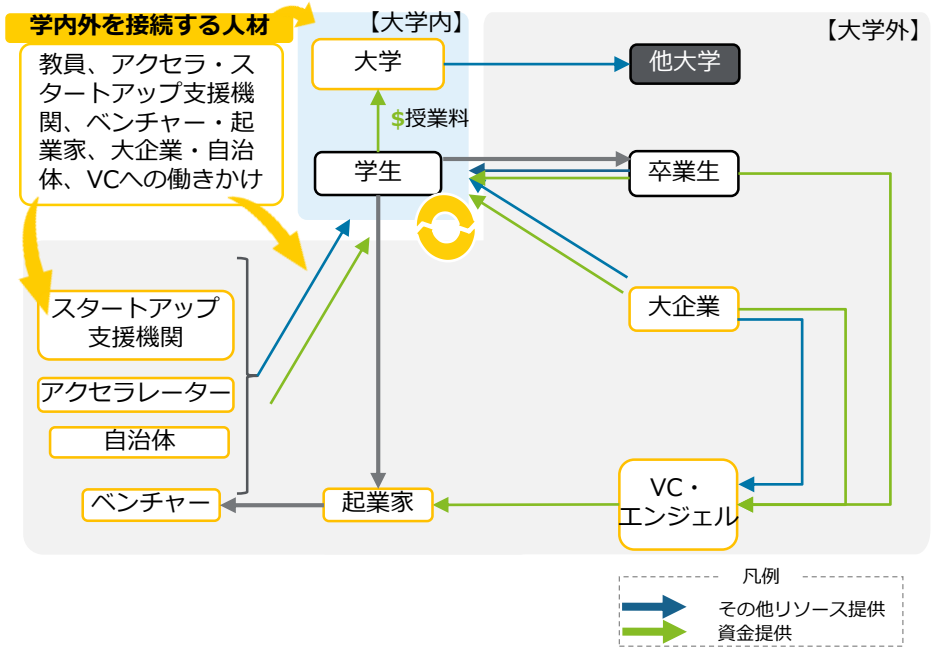
現状

学外に連携先はいるものの学内と学外の間に隔たりがあり、連携は途上段階である



目指す姿

互いの連携を促進させる人材を配置し、学内と学外の隔たりをなくし、エコシステムを機能させる



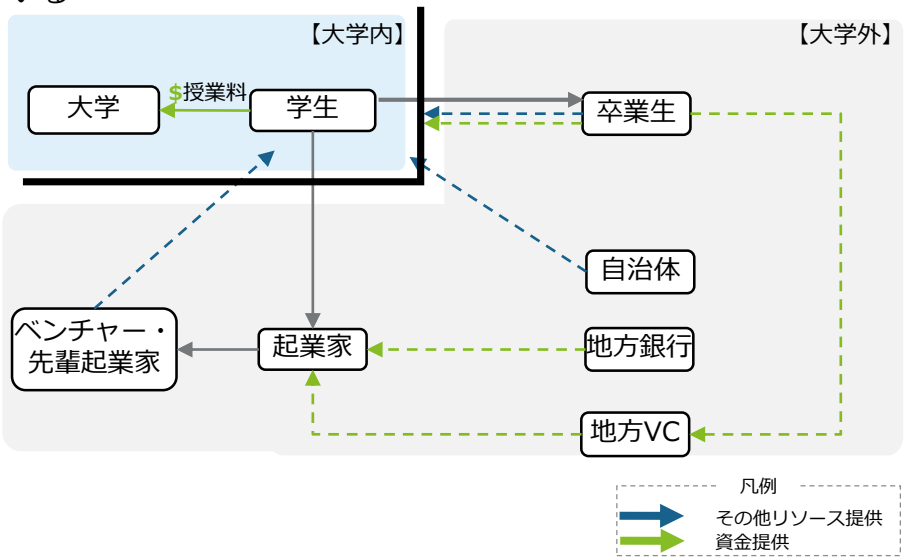
今後の方向性		
	各大学	✓ 学内外を接続する人材とともに自大学に不足しているリソースの特定と、それを補うための連携先の選定 ✓ 将来的に大学自力で学内外を接続するためのノウハウ蓄積と、連携先とのネットワークの深耕
	大学への支援	✓ 学内外を接続する人材（大学内外に働きかけ、アントレ教育エコシステムの推進をリードできる人材）の選出と、地域への設置推進

【提案③：アントレ教育エコシステムの形成に向けた地域連携の促進】地方都市における現状と目指す姿

✓ 地域内と都市部双方にネットワークのある人材を企業・機関からの出向等で受入れ、学外連携先とのネットワークを拡大し、自大学内と地方内で補いきれない部分は、オンラインネットワークを活用し、外部とのデジタル連携を推進し、不足リソースを確保する

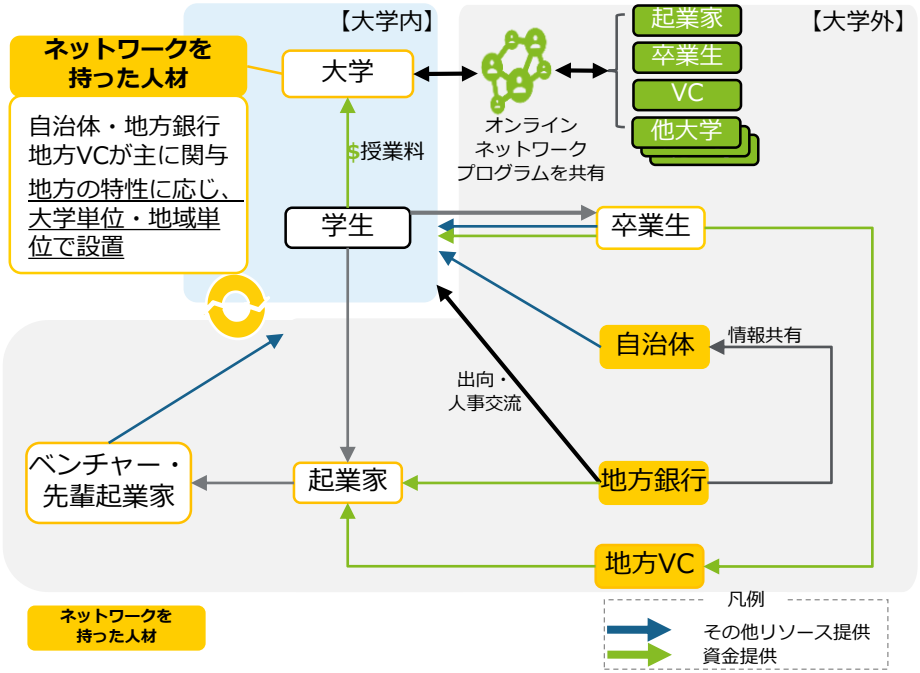
現状

都市と比べ外部連携先が少なく、学内と学外の間で隔たりが存在している



目指す姿

運営事務局を置き、学内と学外の連携を促進させ、不足しているリソースをオンラインで補充し、エコシステムを機能させる

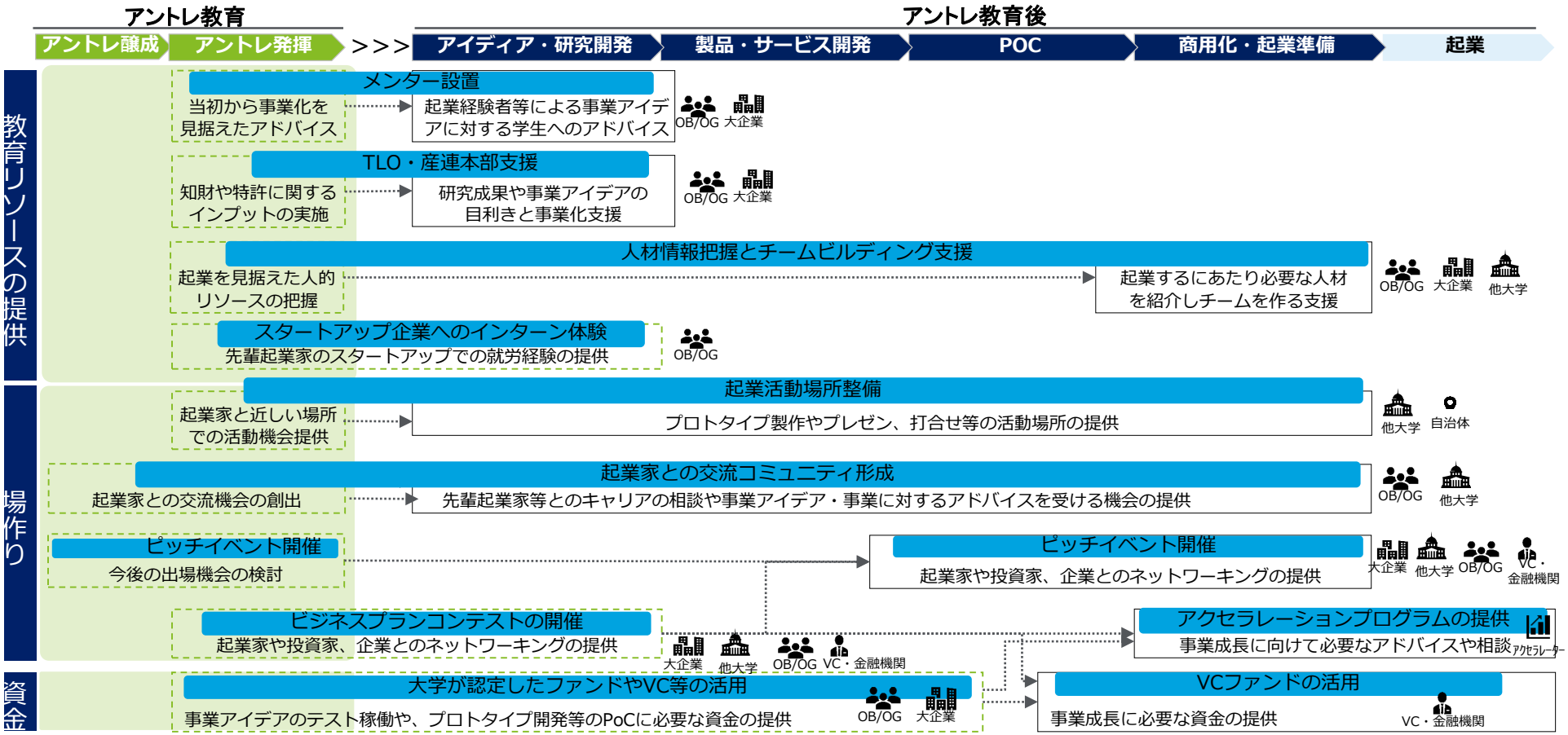


今後の方向性

各大学	✓ オンラインネットワークの活用による外部とのデジタル連携の推進 ✓ 地域内と都市部双方にネットワークのある人材を企業・機関からの出向等で受入れ、学外連携先とのネットワークの拡大
大学への支援	✓ 地方で不足している連携先を補うためのオンラインネットワーク基盤の設計と整備

【提案④：成果輩出を見据えて連携すべき外部先の検討とそれを踏まえたプログラムの拡充】現状と目指す姿

✓ アントレ教育の外部連携と並行し、成果輩出を見据え、教育リソース・場づくり・資金の要素で、アントレ教育と連携すべき外部先の検討と、それを踏まえたプログラムの拡充を行うことで成果を生む仕組みを構築する



今後の方向性

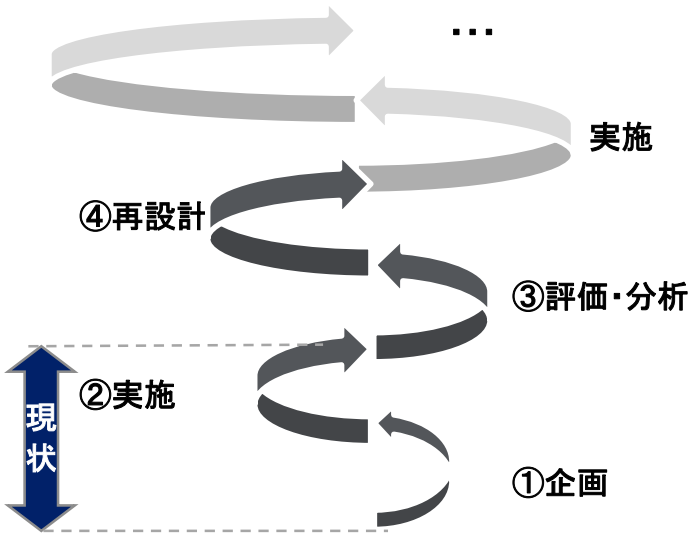
各大学	✓ アントレ教育の外部連携と並行し、成果輩出を見据えた教育リソース・場づくり・資金の要素で、アントレ教育と連携すべき外部先の検討と、それを踏まえたプログラムの拡充
大学への支援	✓ 大学がアントレ教育からアントレ教育後の間をつなぐ仕組み構築を推進するにあたり必要となる人材プラットフォームの整備や、制度対応、国内外調査やネットワーキングの支援

【提案⑤：プログラム・運営体制等のPDCAによる教育成果の最大化】現状と目指す姿

✓ アントレ教育プログラム及び運営体制の両面において企画と実施で終えるのでなく、結果の評価分析、それを踏まえた再設計を行うことで、アントレ教育の効果が更に高まる

現状

現状は企画と実施まであり、その後の評価・分析、再設計を踏まえた実施には至っていない



目指す姿

企画・実施だけでなくその後の評価分析を実施し、それを踏まえたアントレ教育の再設計をし、実施という好循環のサイクルを回す

	アントレプログラム	運営体制
①企画	✓ 効果測定を見据えたプログラムの設計	✓ 策定したプログラムを推進するための運営体制の設計
②実施	✓ -	✓ -
③評価分析	✓ 企画時に設定した目標に対する結果の算出及び評価と分析を実施	✓ 実施を踏まえて、明らかになった課題の洗い出しと要因の分析
④再設計	✓ 他大学事例や外部有識者の評価・意見を踏まえたプログラムの再設計	✓ 再設計したプログラムを推進するための体制を他大学事例や有識者の意見を踏まえ設計

今後の方向性

各大学	✓ アントレ教育プログラムの評価指標の設定と分析の実施 ✓ 分析結果の学術論文等での発表 ✓ アントレ教育プログラム受講者の卒業後の状況の把握 ✓ 外部連携をした先からの評価・意見の把握
大学への支援	✓ 大学にてアントレ教育を評価する際の参考となるKPI項目の提示（有識者を巻き込んだ機会の設定） ✓ 大学間で成功事例を共有できるコミュニケーション機会の創出

【第3章】
大学におけるアントレプレナーシップ教育の事例調査

【第２節】
海外の大学における取組事例

【本節の目的と内容】
海外の大学におけるアントレプレナーシップ教育の取り組み事例について、4大学を対象としてデスクトップ調査を実施し、デスクトップ調査結果をもとに個別ヒアリング調査を実施した。調査結果のマッピングを行い、取り組み状況を取りまとめた。

【各スライドの構成】
各スライドは、
・タイトル
・スライドについての説明
で構成している

①アントレ教育プログラムの学生受講プロセス（まとめ）

- ✓ メディアの利用、ブランド構築、ビジネスコンテスト等の取組によりアントレ教育プログラムの認知度の向上を進めている
- ✓ 学生の興味を惹く企業、講師、コンテンツの提供等を通じて受講者の惹きつけ・獲得している

	認知	関心	調査	申請	受講	推奨
	存在を知る	魅力を感じる	追加情報を得る	選択・受講する		他者に勧める
バブソン	■ アントレ教育プログラムは**全学部生の必須科目** ■ **アントレ教育ランキング世界1位として高い認知** ■ メディアを通じてアントレ教育の論文や記事を発表して認知度を向上	–	–	■ **実践型**のプログラムを提供		■ 卒業生のネットワークを通じて海外大学までバブソン大学の方法論・ツールの認知を促進
スタンフォード	■ **d.School、Design Thinking、Lean Startup等のコンセプト設定により認知度を向上** ■ シリコンバレーの起業家との交流機会によりマインドを醸成	■ **有名な企業（Google、SAP、シリコンバレーの企業等）から講師を招いて**興味の惹きつけ	■ 教員と随時に会話 • d.Schoolの施設は誰でも訪れて教員と相談が可能	■ **最新の有望スタートアップの分析、すぐ使える起業知識**（資本政策、投資家選定基準等）提供		■ 学生間の交流 • 研究室やd.Schoolの施設では学生による起業に関する議論が活発であり、アントレ教育プログラムに関する議論も多い
NUS		■ シリコンバレー、NY、イスラエル、北京、上海等海外スタートアップでのインターン機会を提供				
ミュンヘン		■ 卒業年数が浅く学生と近い存在の起業家による経験談等を提供				
清華大学	■ 多数の**ビジネスコンテスト開催**により認知度向上	■ **トップ企業の経営者、有名な組織**を招いた学生の惹きつけ ■ 学生が求める内容を提供				

②各大学におけるアントレ教育プログラム

✓ スタートアップエコシステム構築に成功している大学は、スタートアップの全ライフサイクルにおいて、教育、メンタリング、資金、リソース、スペース等の支援を一気通貫で提供している

起業

Idea Creation		Business Launch		Business Expansion
プログラム	ピッチイベント・コンテスト	製品開発	インキュベーション・アクセラレーション	事業拡大・海外展開

バブソン

Foundations of Management and Entrepreneurship

- 学部生の必須項目として設置された一年間のアントプレナーシップ教育プログラム。
- 学生が起業の講義を受けながら、20人程度のチームに分けて人事、マーケティング、調達、顧客サービス等の役割を分担して起業プロジェクトを実践する

スタンフォード

Stanford Innovation and Entrepreneurship Program

- 工学系学生向けのプログラムであり、研究成果の事業化を重点的に支援
- シリコンバレーにおいて注目されているスタートアップの成長の歴史・マインドセット等のケーススタディや、投資家のスタートアップ選定基準・投資ポートフォリオ・投資嗜好、資本政策等、実用性が非常に高い内容が教えられている

d.School

- 工学系と経営学Business Schoolと共同で設立した機関であるが、全ての学部・大学院の学生が受講可能

清華大学

Dream Course

・学生向けアントレ育成プログラム

MOOC中国創業学院コース

・本学学生に限定せず、一般公開のオンライン起業家講座

X-lab　インキュベーター

・資金、リソース、清華大学学内でのスペース提供

Tus Star

・資金、全国各地でのスペース提供

Diamond Plan

・レイター期のSUに資金、リソース提供

Tusによる地域・海外進出の支援

③教員向け教育プログラム

✓ バブソン大学とスタンフォード大学は学内に限らず、他大学向けてアントレ教育のノウハウ、リソース、ネットワークを公開し、他大学におけるスタートアップエコシステムの形成に貢献している

入門 → 応用 → 実践

学内教員向け

バブソン

Faculty Development
- Faculty Workshopにおいて優秀な教員による授業デモを提供し、若手教員を育成する

Modules for Entrepreneurship Education (MEE)
- 教員がカリキュラムの設計と開発を行う

スタンフォード

コース設計・審査・テストの支援
- 経験豊富な教員がコースに対する助言、審査を提供
- 1～2週間のPop-upクラスを通じて試行・改善し、授業の高品質を担保する

他大学教員向け

バブソン

Babson Academy
- 30年以上運営している大学アントレ教育者の育成プログラムにより、他大学のアントレ教育者にアントレ教育のリソース、情報・インスピレーション、ネットワークを提供

The Babson Collaborative for Entrepreneurship Education
- 21カ国に渡る29の加盟機関（大学、アントレ教育専門学校、ビジネススクール）が、アントレ教育を共に構築し、教育学的なベストプラクティス、専門知識、グローバルネットワークを共有する

Global Symposium for Entrepreneurship Educators
- バブソン大学における優秀なアントレ教育講師が講義デモを行い、受講した講師がデモ受講後にフィードバック、アドバイスを提供

スタンフォード

d.School Faculty Workshops
- 学生向けプログラムと同様に、ワークショップを通じてDesign Thinking等を習得するプログラム

University Innovation Program
- 他大学の学生に講義、支援、ネットワークを提供し、其々の大学におけるエコシステム構築の貢献を促進するプログラム

【第4章】
学生のアントレプレナーシップ教育の受講に関する調査

【本節の目的と内容】
第４章第１節では、アントレ教育のすそ野を広げるための施策を検討するため、EDGE-NEXT プログラムの約150名の受講学生を対象にアントレ教育を受講した経緯等をNPS（ネットプロモータースコア）によるアンケート調査を実施し結果をまとめた。分析にあたっては、回答結果を文系・理系、学部1~2年、学部3~4年・大学院の5つのカテゴリーに分類した。

アントレプレナーシップ教育の受講に関する調査

✓ アンケートの目的、対象、概要は下記の通りである

アンケート実施の概要

目的	• 文部科学省では、アントレ教育の裾野を広げる為の課題を明確化し、施策立案に役立てる • 大学生の意見を通じて課題を整理する
アンケート対象	• EDGE-NEXT プログラムを受講する大学生、大学院生（有効回答数　149名）
アンケート概要	■ プログラムに対する認知 　• プログラムを知るきっかけ ■ プログラムに対する関心 　• 参加の理由 ■ プログラムの調査 　• 追加情報収集の有無、情報取集の手段 ■ プログラムの申請・受講 　• プログラムに対する受講前後の動機づけおよび変化の有無 　• 受講による学びとその活用 ■ プログラムの推奨 　• 他者への推薦

アントレプレナーシップ教育の受講に関する調査

✓ アントレプレナーシップ教育の受講に関する調査をNPS（ネットプロモータースコア）に基づいて実施し、分析を行った

アントレ教育受講に向けた論点整理

	認知	関心	調査	行動（申請）	行動（受講）	推奨
	存在を知る	魅力を感じる	追加情報を得る	選択・受講する		他者に勧める
想定接点	カリキュラム、メルマガ、ポスター 新聞記事、説明会、デモデイ、教職員、学生			申請HP	授業	学生
顧客行動	カリキュラム SNS ポスター メール 情報を知る 新聞記事 学生推薦 教職員による紹介		HP訪問 事務局に問合せ 口コミサイト 情報収集 教職員に聞く 学生に聞く	申請決定	申請書類提出 授業参加	満足 他人に推薦 SNSに投稿
顧客の思考・感情	• ○○プログラムって名前が面白そう • 授業の内容に興味がある • 受講者の経験談が面白い		• 先輩や先生に聞きたい • あまり情報がない	• 志望動機を書く必要があり、面接もあり、面倒くさい	• 参加して面白い • 教えられることや実践で得られた経験は非常に訳立つ	• 他の人に推薦したい • SNSに投稿したい
課題（仮説）	• 教職員、学生の認知度が低い • 学内外のPRが不足	• ポスターやメールから魅力を伝えられない • 先輩受講生から魅力が伝っていない	• 必要な情報が揃っていない（体験談、効果等）	• 申請プロセスが複雑 • 受講可能人数が少ない	• プログラムに沢山の時間を掛ける必要がある • プログラムが少ない	• 受講生が少ないため、推薦できる範囲が限定 • 受講生が推薦したくない？

アンケートの結果

- ✓ NPS（ネットプロモータースコア）に基づいてアントレ教育受講までの学生の行動傾向を整理した
- ✓ 学年が低いほどアントレ教育のプログラム情報に対して、魅力が低いと感じている学生が多く、プログラムを他者へ推奨する意思も低い傾向がある

アントレ教育受講までのプロセスにおける学生の行動傾向

	認知	関心	調査	行動（申請）	行動（受講）	推奨
	存在を知る	魅力を感じる	追加情報を得る	選択・受講する		他者に勧める
接点	カリキュラム一覧表、シラバス、大学からのメール・専用情報発信サイト、教員・友人・先輩による推薦、デモデイ			申請HP	プログラム	友人、同級生
学生の行動 学部1~2年生	• カリキュラム一覧表、シラバス、単位互換表、大学からのメールを通じてプログラムを認知する学生が最も多い（1-2） • 1件のプログラムを受講した学生が6割強（1-3）	• プログラム情報を見て、魅力を感じる学生が7割強（2-1） • 魅力を感じない学生が3割弱（2-1） • 他者との繋がり、新たな気づき、専門的な見解、実践的な取り組み、授業形態に関心を持つ（2-3）	• 追加情報を収集しない学生が7割強（3-1） • プログラム情報から自身の進路を明確に想像できる学生が少ない（3-3） • 受講時間・受講に係る労力に関する情報に不足を感じる（3-5）	• 実践的・体験型内容、起業に関する情報収集、将来に役立ちそう、講師の話を聴きたいが主な受講理由（4-2） • 視野を広げることにメリットを感じる学生が多い（4-4）	• プログラム参加を通じて、想像していた成果、想像以上の成果を得た学生が多い一方、想像と異なる成果を得た学生もいる（4-6） • キャリアパスに対する考え方の変化は少ない（4-7）	• 推薦しない、どちらともいえないを回答した学生が4割弱（5-1） • 入門コンテンツに関心のある学生が多い（5-5）
学生の行動 学部3~4年生・大学院生	• シラバス、大学からのメールによる認知が最も多い（1-2） • イベントでの案内、他人の推薦も比較的に多い（1-2） • 複数のプログラムを受講した学生が多い（1-3）	• プログラム情報を見て、魅力を感じる学生が9割強（2-1） • 他者との繋がり、新たな気づき、専門的な見解、実践的な取り組み、授業形態に関心を持つ（2-3）	• 追加情報を収集する学生が4割程度（3-1） • プログラム情報から、進路を明確に想像できる学生が多い（3-3） • 受講時間・労力、体験談、メリットの情報が不足していると感じる（3-5）	• 起業の仲間作り、メンタリング、リソース獲得のために参加する学生が多い（4-2） • 視野を広げ、起業知識を得ることにメリットを感じる学生が多い（4-4）	• プログラム参加を通じて、想像していた成果、想像以上の成果を得た学生が多い（4-6） • キャリアパスに対する考え方の変化を感じる学生が多い（4-7）	• 推薦する学生が7割強を占める（5-2） • 実践・応用コンテンツに関心のある学生が多い（5-5）

アンケートを通じて得られた示唆

- ✓ NPS（ネットプロモータースコア）に基づいてアンケート結果から得られた示唆を整理した
- ✓ 学部1～2年生に対しては、プログラム案内窓口支援を強化し、体験型内容や起業家講演等幅広いテーマを提供する一方、学部生3～4年生、大学院生に対しては、起業に繋がる具体性のある実践・応用コンテンツを提供し、学生の関心を惹きつける

アントレ教育受講におけるプロセス

	認知	関心	調査	行動（申請）	行動（受講）	推奨
	存在を知る	魅力を感じる	追加情報を得る	選択・受講する		他者に勧める
接点	カリキュラム一覧表、シラバス、大学からのメール・専用情報発信サイト、教員・友人・先輩による推薦、デモデイ			申請HP	プログラム	友人、同級生
学生の行動 学部1~2年生	• 単位交換、シラバス、大学メールを通じてプログラムの認知を向上（1-2） • 1件のプログラムにとどまらず、体系的に参加できるプログラムを提供（1-3）	• 興味のあるプログラムを案内する窓口支援（2-1） • 従来の講義と異なる受講内容、授業形態で学生の関心を惹きつける（2-3）	• 追加情報を入手しやすい仕組み作り（3-1） • 追加情報で、受講後の成果をより明確に記載（3-3） • 受講における労力・時間を明記（3-5）	• 体験型内容、幅広いトピック、実務家の体験談などのコンテンツを提供（4-2） • 大学の専門授業と異なる幅広いテーマを提供（4-4）	• プログラムのカテゴリー化を行い、学生がニーズに合わせて受講できるような仕組みを検討（4-6） • 受講後の成果、将来像の提示（4-7）	• 入門プログラムを充実させ、学生にとって価値のあるプログラムを提供（5-1，5-5） • 学生が受講後の情報共有できる場を提供（5-1）
学生の行動 学部3~4年生・大学院生	• 単位交換、シラバス、大学メールを通じてプログラムの認知を向上（1-2） • イベント内容にプログラム内容を織り込む（1-2） • 受講生によるネットワーク構築、体験談の発信（1-3）	• 従来の講義と異なる受講内容、授業形態で学生の関心を惹きつける（2-3）	• 追加情報を入手しやすい仕組み作り（3-1） • 追加情報で、受講後の成果をより明確に記載（3-3） • 受講における労力・時間を明記（3-5）	• 起業に関するネットワーク、リソース、資金をテーマとしたコンテンツを提供（4-2） • 起業知識に関するプログラムを提供（4-4）	• プログラムのカテゴリー化を行い、学生がニーズに合わせて受講できるような仕組みを検討（4-6）	• 学生が受講後の情報共有できる場を提供（5-2） • 実践・応用コンテンツを充実させ、学生にとって価値のあるプログラムを提供（5-5）

文部科学省